

No.89 ジャウメ・プレンサ —無題—

Jaume Plensa

北川フラムさんのコラム / 1998 (平成 10) 年 10 月 1 日付 立川市市報記事より

ジャウメ・プレンサは、スペインはバルセロナの作家である。彼は鉄の鑄造により表面に文字を浮き上がらせ、1世紀前の科学者・哲学者のフランツ・ヨーゼフ・ガルが記した脳における精神の特性を列挙している。この車止めの頭の部分に手を当てて、そこを軸にして周りを回ると、螺旋に並んだ文字が自然に読めるようになっている。

プレンサは、この“精神の地図”をファーレ立川に当てはめ、精神の特性を示すそれぞれの言葉が脳の一部として点在するように、92人の作品もまた都市の生きた体の一部としてそれぞれあるのだ、と言う。プレンサは文字や数字を彫った詩的な作品をつくるが、このささやかな車止めもまた、人間の生命や広大な宇宙へと私たちの意識を導いてくれる。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現: UR 都市機構) 「ミニ通信」より

1世紀以上も前の科学者で理論家のフランツ・ジョセフ・ガルは脳における“精神”の特性の位置を正確に示しました。この不思議な不可能な地理が、東京にあるファーレ立川の為に私が制作している作品の詩的ベースになっています。

このプロジェクトに参加する数多くのアーティストたちもまた、時と共に、現実の空間に、不可能な地理を作り出して行くのでしょうか。

私の彫刻の表面には端から端まで、ガルが展開した精神の特性が列挙されています。

現実が常に不完全なものであるようにこのリストもまた、大きさが限定されているため不完全なものとなっています。

ファーレ立川プロジェクトが美しいのは才能あるアーティストそれぞれが、都市の生きた身体の一部となっていることです。

それぞれが変化する織物の上に広がる精神の小さな点であり観客に対し自らを絶えず開いていくちいさな質問者なのです。そこには記念碑はありません。賛辞も存在しません。

ウィリアム・ブレイクは「時は永遠の恵みである」と言いました。

これは疑いなく、このプロジェクトとの最高の定義です。